

人の役に立つということ

川本中学校 3年

宮崎 清一郎

「人の役に立ちたい。」

そんなことを、一度くらいは考えたことがありますか？私もそう考える一人です。人の役に立つと、自身が幸せになって、それが自分の自信につながるし、何より、人に笑顔になってもらえるから。

そんな私の夢は、「青年海外協力隊で働くこと」です。何それ？と思う人もいるかもしれませんが、まず、簡潔に説明させていただきます。青年海外協力隊とは、名前の通り、海外の最貧国で人助けをしたい人を募り、その人たちに実際に現地に行ってもらい、そこで自らの力を最大限に発揮してもらおう、といったものです。まさに、THE・最高にやりがいのある仕事！といえます。私はその一員となって、ボランティアをもっともっと増やし、全世界の人が国や人種を超えて思い合える世の中に一步でも近づきたいのです。

さて、説明はこの辺にして・・・

私がなぜそのような夢をもつようになったのか、お話ししましょう。まず第一に、人の役に立てるからです。冒頭でもお話したように人にとって、人を喜ばせたり幸せにすることは、一番の幸福だと思うのです。皆さんも、困っている人を助けたときや、「ありがとう。」と言われたときに、心が温かくなるでしょう？それこそが、人が人からしかもらえない、最も贅沢な幸福なのです。

第二に、今までの自分を変えたいからです。私は幼い頃から周りの目をいつも気にしていました。自分が周りの目にどのように写っているのかがいつも気になり、目立たないように、周りに変に思われないように生きてきました。そんな自分を、周りの目を気にせず、本当に相手のことを想える人にしたいと思ったのです。

愛情の代名詞であるマザーテレサは、こんなことを説いています。「愛されることより、愛することを。理解されるより、理解すること

を。」これを聞いて私は、「変わりたい！」と決意しました。今まで周りの目を気にしてばかりだったけれど、これからは自分が周りを気にしてみようよ、と言われた気がしたのです。現在、アフリカの最貧国では、五秒に一人のペースで五歳未満の子供たちの命が消えています。今、こうしてお話している、まさにこの瞬間に、小さな灯火が消え続けているのです。マザーテレサは、こんなことも説いています。「私たちは、大きいことはできません。小さなことを、大きな愛情をもって行っただけです。」

確かに、私たちは、最貧国に住む人々全員のお腹を満たすことはできません。しかし、何かできることがあるはずですよ。

例えば、募金もあるでしょう。お金を寄付することで、少しの人々の助けになってあげられます。

しかし、募金だけが、私たちができることではありません。今を一生懸命生きる貧しい子供たちに、「頑張れ！」と心の中で言うことも、また人助けになるはずですよ。そうすれば、少しだけ世界が輝いてみえるでしょう。人助けは、どんな形のものでも、今、人類が一番すべきことなのではないでしょうか。

今、私は夢に向かって奮闘中です。実際に人助けをしてみたり、相手の気持ちになって行動したりしています。先日は、JICA－国際協力機構にお伺いし、青年海外協力隊として実際に貧しい国の人々のために働いた人のお話を聞き、人助けについて、改めて深く考えさせられました。

今、私にできること、目の前に迫っている受験に、一生懸命勉強して立ち向かうこと、清掃や給食など、みんなで協力して進んで働くこと、家の人とたくさん話をする事、そんな一日一日を大切にしていきたいです。

そしていつか、夢を実現させ、貧しい子供たち全員に、笑顔の花を咲かせてみせます。